

ガイエトナム
ハート大学農学部援助協力
年次報告書
—1971年—



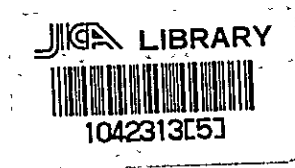
3
7
F
||

昭和47年3月

海外技術協力事業団

F 222
1.66
K

11



ヴィエトナム カントー大学農学部援助協力

年 次 報 告 書

1 9 7 1 年

1971年1月～1971年12月

昭和47年3月

国際学業団	
受入 月日 '84. 4. 21	123
	24.7
登録No. 03799	AF

AF

<表紙写真>

日本人派遣専門家の
指導により、小
論を発表する学生

(太田 専門家撮影)

序

ヴェトナム カントー大学農学援助協力事業は、本事業団最初の農業高等教育協力として、昭和45年3月7日に二国間協定が締結されました。

爾来、これに基き、専門家の派遣、資機材の供与、研修留学生の受入、ロンボプランによる研修員の受入れなどを行っています。協力期間は一応6ケ年となっておりますが、他の農業開発プロジェクトに比し長期間の協力が約束されているわけです。これも教育協力という特殊事情によるものです。

即ち、従来の経済援助がともすれば、即効的、直接的に国益に還元されるべき投資と受け取られがちなのに対して、国際教育協力はパートナーシップの立場から長期的にその国の教育に寄与するもので、国際的観点からの教育協力であり、その国の自助努力に対して援助の手を差しのべるものです。

実施にあたっては、それぞれの国情、教育水準、制度などを熟知、理解の上、その国の実情、教育計画に沿って協力を実施しなければならないと思います。

本教育協力が、今後の教育協役に少しでも役立てばと思い、又大方のご理解と、ご支援を頂ければ幸甚にと存じ、本年次報告をまとめたものであります。

おわりに報告書のとりまとめに御尽力を頂きました、(財)日本国際教育協会の宮山常務理事に謝意を表すものであります。

海外技術協力事業団
理事長 田付景一

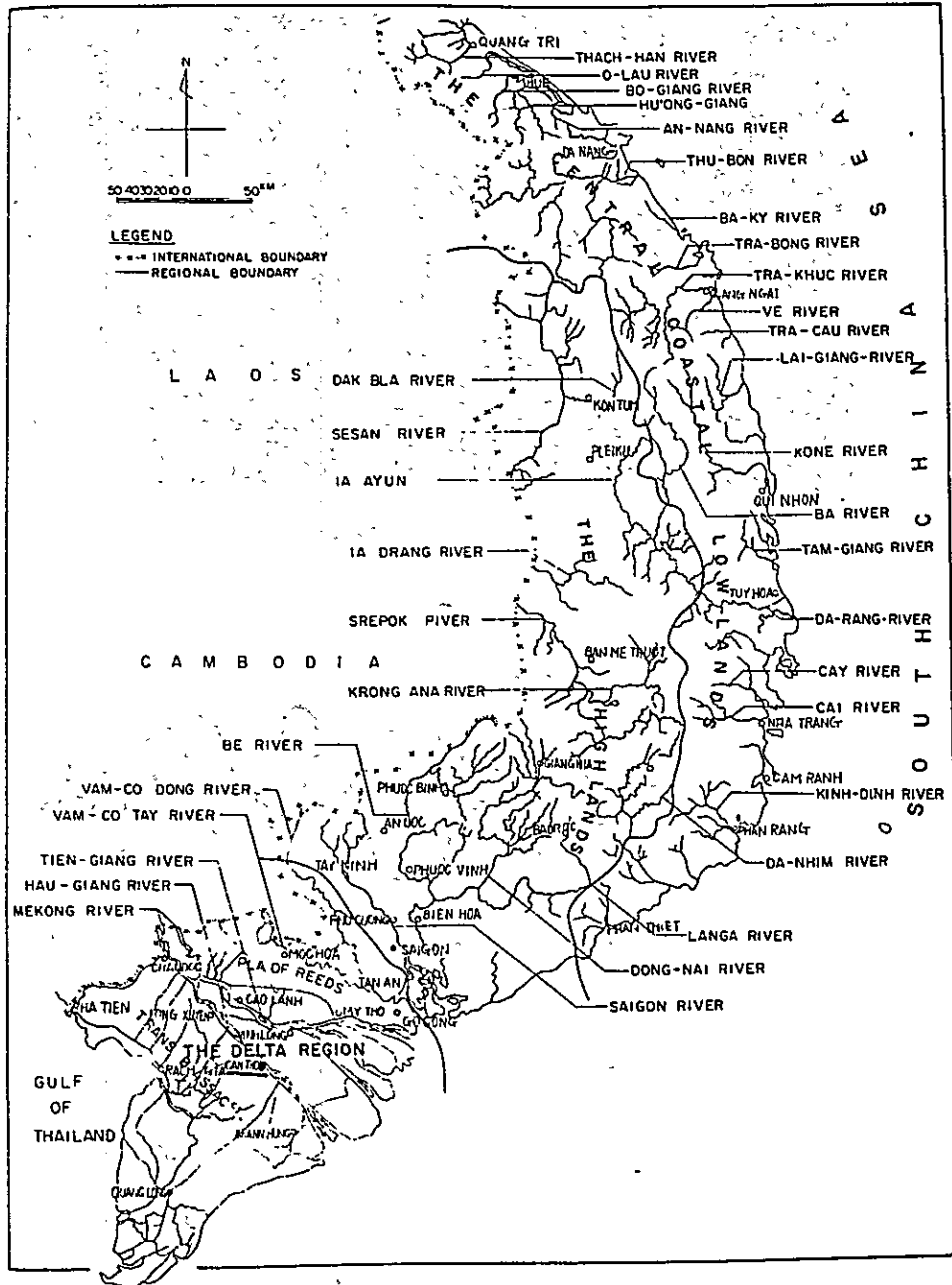
ヴィエトナム・カントー大学農学部援助に関する
1971年報告
目次

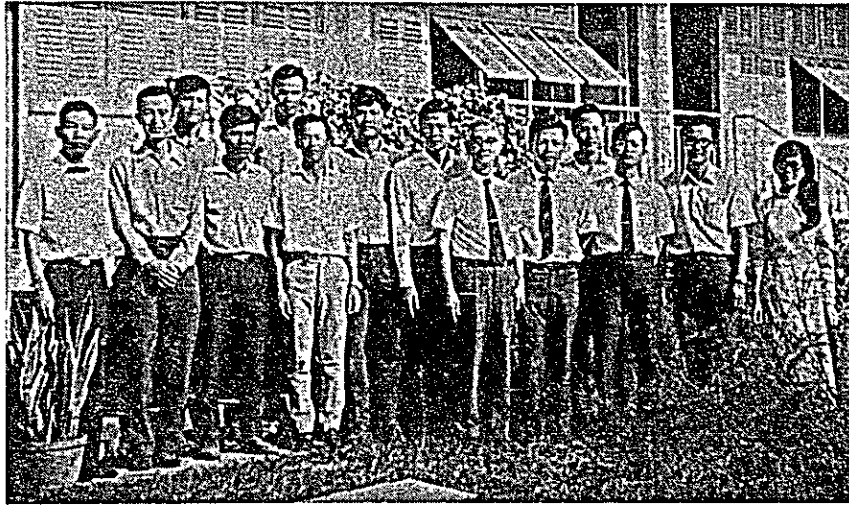
序

1	業務日誌	1
1.1	年間業務日誌一覧	1
1.1.1	国内に於ける業務日誌	1
1.1.2	現地に於ける業務日誌	3
1.2	主要事項の説明	4
1.2.1	連絡会議	4
1.2.2	調査団の派遣	4
1.2.3	研修員の受入	11
1.2.4	専門家の派遣	14
1.2.5	ヴィエトナム・カントー大学農学部運営に関する協議会の設置	14
2	技術情況報告	16
2.1	全般的事項	16
2.2	専門的事項	17
2.2.1	作物園芸関係	17
2.2.2	遺伝学および植物育種学	19
2.2.3	畜産学関係	24
3	協力事業の背景	28
3.1	南ヴィエトナムの教育事情の変化	28
3.1.1	教育者の人事異動	28
3.1.2	サイゴン国立農業大学の移転計画と大学院修士課程の設置	28
3.1.3	高等教育機関の設置	28
3.1.4	米国オハイオ大学チーム引揚げ	28
3.1.5	ヴィエトナム高等教育事情について	29
3.2	カントー大学に於ける教育事情の変化	29
3.2.1	大学院修士課程の開設準備	29

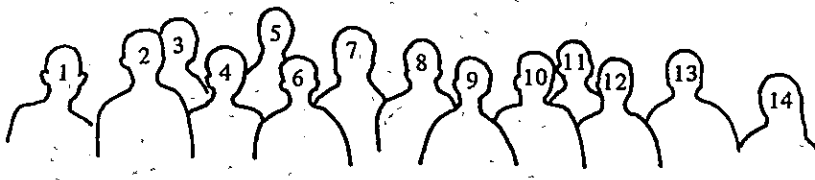
3.2.2	本年中に海外に留学した農学部教官	29
3.2.3	農学部教官陣容	29
3.2.4	農学部の授業科目と担当教官	31
3.2.5	農学部のカリキュラム	35
3.2.6	農学部の学生教	39
3.3	諸外国の教育協力, 援助の動向	39
3.3.1	研究留学生の招致	39
3.3.2	図書, 雑誌の供与	39
3.3.3	農学部教官の海外出張	39
3.4	その他の情報	40
4	4 協力事業に対する国内対策	41
4.1	連絡会議	41
4.2	運営協議会	42
4.3	巡回指導調査団の派遣	43
4.4	専門家の派遣	44
4.5	資機材の供与	45
4.6	文部省科学研究費による研究班	46

グイエトナム共和国





農学部スタッフ一同



- | | | |
|---------------------|------------------------|----------------------|
| 1. 太田 泰雄 | 6. Tran dang Hong | 11. Ha huy Hoang |
| 2. 池田 三雄 | 7. Tran Van Hoa | 12. Nguyen thai Vu |
| 3. Nguyen phu Thien | 8. Chan Van Dung | 13. Huynh Cong Tho |
| 4. Phan Van Chnong | 9. 川本 信之 | 14. Trần thi Tuy Hoa |
| 5. Vo Ai Quac | 10. Nguyen Viet Truong | |

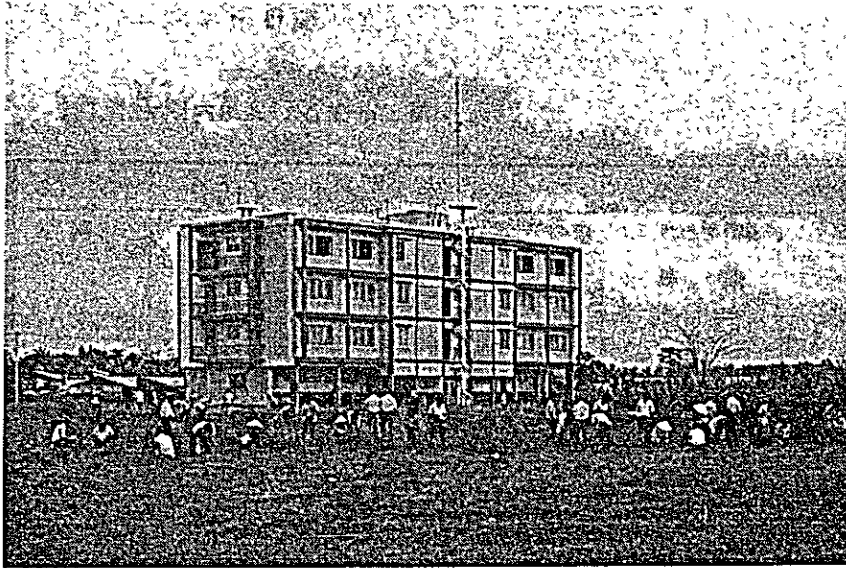
専門家の活動



川本専門家と助手



太田専門家と助手



教官宿舎の全景

(日本人専門家の宿舎はこの4階である。)



遺伝学及び植物育種学の学習風景

1. 業務日誌

1.1 年間業務日誌一覧

1.1.1 国内における業務日誌

区分	月日	出席者	於	摘要
連絡会	1月14日	文 部 省 文 化 庁 西川五郎教授 O T C A	国立教育会館	1. 現地事情報告 2. 協 議 後続専門家の派遣について 研修員の受入について 留学生の受入について
同 上	2月10日	文 部 省 文 化 庁 外 務 省 西川五郎教授 O T C A	国立教育会館	1. 現地事情報告 2. 協 議 専門家候補の取扱いについて 留学生の受入について 巡回指導調査団の派遣について
同 上	3月11日	文 部 省 文 化 庁 外 務 省 巡回指導調査団 団員 O T C A	外務省会議室	1. 協 議 巡回指導調査団の調査内容について
巡回指導調査	3月21日 4月 9日		O T C A 会議室	1. 調査内容 Joint Committee の設置など
巡回指導調査報告会	4月15日	文部省, 外務省 はじめ関係者		巡回指導調査報告, 写真の展示

区分	月日	出席者	於	摘要
	5月13日	文 部 省 文 化 庁 外 務 省 西川五郎教授 O T C A	文化庁第二会議室	1. 巡回指導調査報告 2. 協 議 短期専門家の派遣について Joint Committee について
長期専門家 赴任	6月15日			池田三雄専門家（農学分野の 教授）鹿児島大学教授
専門家一時 帰国	10月 1日 }			太田泰雄専門家（農学分野の 教授）学会出席のため一時帰 国
10月15日 専門家一時 帰国報告会	10月15日	文部省はじめ関 係者	O T C A 会議室	一時帰国による太田泰雄専門 家の報告
グィェトナム ムカントー 大学農学部 協力のための 運営協議 会	11月15日	文 部 省 文 化 庁 外 務 省 熱帯農業学会 (財)日本国際 教育協会 (財)海外農業 開発財団 (社)東南アジ ア農業教育協会 熱帯農業研究セ ンター O T C A	O T C A 会議室	第1回会議 1. 経過説明 2. 設置主旨説明 3. 協 議 教育協力のあり方について 国内体制の確立について
/ 短期専門家 赴任	12月 8日			宮里満専門家（工学機器利用） 井之上準専門家（農学実験用 機器利用）

1.1.2 現地における業務日誌（川本リーダーの報告）

1. 川本, 太田, 両名の宿舎未完成の結果
Magestie Hotel (Saigon), Phan Tuing Hotel (Can-Tho), 農学部長官舎（大学構内）と次々に移動し, 合同宿舎（構内）完成し, 10月末ようやく定住の処を得た。
2. 資機材の到着
第一次（昭和45年度分予算）1～3月到着, 第2次（昭和46年度予算）5月到着。
2月27日サイゴンより東郷文彦大使来臨, 日本よりの供与資機材贈呈式挙行。
3. 川本, 3学年生に水産学のセミナーを行い（2月～12月）, 太田, 4学年生に遺伝学, 講義及び実習を開始す（12月）
4. 2月～11月3学年生（小論文）（課題研究）指導を川本2名, 太田, 4名の学生に実施。11月末より, 新3学年生について, 川本6名, 太田2名の小論文引受く。
5. 11月末より, 新4学年生の卒業論文について川本, 2名, 太田, 3名池田, 3名引受く。
6. 10月日本留学生3名決定
7. 3月～4月OTCAより, 巡回指導調査団来訪す。
8. 池田6月18日サイゴン着
9. 太田, 国際会議出席のためトリノ大学（イタリー）に出張, 次いで日本育種学会秋季大会（弘前大学）に出席す（9月14～10月15日）
10. 農学部長Dr, Troung, 事務局長Mr, Vang, 農業工学科長Mr, Thienの3名OTCAの高級研修員として訪日（9月27日～10月10日）
11. 川本, プロジェクト・リーダー会議出席のためにタイ国, Bangkokに出張（9月22日～30日）
12. 12月4日大学卒業式挙行。川本, 太田出席す。
13. 太田11月より遺伝学講義, 実習開始
14. サイゴン農業大学より太田に遺伝学の講義の依頼来り, 農学部長と協議し承諾通知す。

1.2 主要事項の説明

1.2.1 連絡会

海外技術協力事業団の法令により、関係各省との協議を必要とするが、本教育協力事業については、文部省との協議になるわけで、この合同委員会は各省会議に相当するものである。就中教育協力と云う特殊事情から学識経験者として熱帯農業学会々長、西川教授を含め、意見を求めているものである。

本委員会では、その時々^々の現地事情に照して効率的な援助をするためのあらゆる協議を行っている。必要な事項については、外務省公信により現地連絡をする。

供与された機械の利用に関する短期派遣専門家については、現地の要望が1名であったが、種々検討した結果、供与機材の効率的な活用には最低4名の専門家が必要とされた。連絡会での結論である。このようなことは公信によって現地に連絡、現地 Joint Committee などでも検討の結果、官里、井之上両専門家の派遣となったものである。

機材の供与、研修員の受入れ、留学生の受入れなどについても、本連絡会の協議対象である。

1.2.2 調査団の派遣

カントー大学農学部に対する技術協力に関しては、1970年3月に日本国政府とヴェトナム共和国政府との間に協定が成立し、同年8月には川本、信之、太田泰雄両専門家を現地に派遣し、同年12月以降、数次にわたって供与資機材も現地に到着し、1971年2月27日には、ヴェトナム政府副首相兼文部大臣、東郷日本大使出席のもとにカントー大学において資機材の受渡式が挙行された。しかしながら、一方教官宿舍が予定よりはるかに遅れて今なお完成せず、また、後続派遣専門家についてもカリキュラムとの関係がはっきりせず今後の派遣計画の見透しも樹てがたい状況にあり、さらに後継者養成としての日本への留学計画も学位問題との関係もあって相手国の

事情が明確でなく、今後の資機材の供与手続きなどについても多くの問題を残しているため、これら協定内容の諸問題を十分調査し、協定の円滑かつ効果的实施について指導助言を与える必要があることが痛感されたので、ここにヴィエトナム・カントー大学農学部に対する授助協力のための巡回指導調査を行なうことと相成った。わが国における大型の国際教育協力プロジェクトは今回が最初のケースであり、政府、関係当局におかれても、本協定の円滑かつ効果的实施に深い関心と熱意を持たれ、特に本プロジェクトのために大型の巡回指導調査団を派遣した次第である。

農学部の拡充計画

昭和44年度11月の実施調査においては、農学部には農学科、畜産学科の2学科を設けることとなっていたがその後現地からの情報によると新たに農業工学科を新設するとともに農場および施設などの拡充計画が考えられている。これは協定内容にもかかわる問題であり、ヴィエトナム政府側と十分協議し、わが国の対処方針を決定する。

カリキュラム

現在、農学部において、教授スタッフの不足から、カリキュラムの編成は一週間刻みとなっており、しかも、非常勤講師が多い。今後、わが国から派遣される専門家を勧誘し現行カリキュラムを検討して農学部における45～46年度分のカリキュラムの編成に助言を与える。

後継者養成計画の促進

農学部の教官の養成は本協力事業の中核をなすものであるが文部省の留学生の受入れ体制等を踏まえて養成計画およびDegreeの取得方法等について協議する。

供与資機材の検討

44年度および45年度分の供与資機材は2学科に必要な調査試験用機材視聴覚教材等を購送しているが事業の進捗状況にてらし、相手国政府および専門家と協議し、46年度分の供与計画を樹立する。

合同委員会の設置

本協力に関する具体的課題を取り上げて、相手国関係者との協議を通じ相互理解を深めることを、主目的とする合同委員会の設置を検討する。

調査団の編成

調査団の編成は次のとおりである。

- 団 長 官山平八郎（文部省大学学術局科学官）……教育行政
団 員 池田 三雄（鹿児島大学教授）……農学カリキュラム
 " 柏原 孝夫（茨城大学教授）……畜産学カリキュラム
 " 新保 昭治（OTCA）……供与資機材・プロジェクト運営

今回の巡回指導調査団に、特に後続派遣専門家候補者である池田、柏原両教授が参加されたことはきわめて意義が大きく、単に両教授が赴任に先がけて予め現地の事情を熟知され派遣時の準備に万全を期してもらおうという利点だけでなく、相手国に対して日本側の熱意を示したことになり、何よりも評価すべきことは相手国の学長、学部長、若い教官諸君と専門分野の内容について直接話し合い機会が得られたことで、教育協力はまず人間的なつながりを作ることから始めるということを文字通り実施できたわけです。

調査団の日程

調査団は1971年3月21日（日）東京を立ち、4月9日（金）帰国、この間にわたってヴィエトナム文部省、カントー大学、日本側派遣教官と数回の会談を行なうとともに、ヴィエトナム農地改革1周年記念行事の1つであるLong Xuyenの農業祭見学、Nha Trangの海洋学研究所訪問、VIKYNO（久保田鉄工とヴィエトナム合弁の農機具組立工場）視察を行なった。詳細な日程は次のとおりである。

ヴェトナム・カントー大学巡回指導調査団 日程表

月 日	行 動		
3月21日(日)	午前	10時定刻	Air Viet-Nam 784 便で Saigon に向う。Taipei, Hong Kong を経由し、18時20分 Saigon タンソニット空港に着く。 OTCA, 石崎調整員の出迎えを受け、宿舎 Hotel Majestic に向う。 早速石崎調整員から現地の社会情勢についてオリエンテーションを受ける。
3月22日(月)	午前		大使館へ来越の挨拶 梁井参事官表敬の後経済室で川島書記官 OTCA 石崎調整員と日程の打合せをすると共に、宮山団長より巡回指道調査内容について詳細の説明をなし、協力を求める。 大使館招待による昼食。
	午後		宮山団長の部屋に団員全員が集まり明日からの調査内容について打合せをする。 就中23日の副首相兼文部大臣との会談について細部打合せを行う。
3月23日(火)	午前		副首相兼文部大臣との会談 ヴェトナム側出席者：副首相兼文部大臣, Cung 文部次官, 通訳兼秘書 日本側出席者：大使館 梁井参事官, 藤田書記官 OTCA石崎調整員 調査団 宮山団長, 池田, 柏原, 新保団員
	午後		Cung 文部次官との会談予定であったが突然の都合で明日へ延期
3月24日(水)	午前	8時～ 9時	文部次官との会談 OTCA 石崎調整員同道
		9時～12分	Notional Agricultural Center を訪問, Florida mission をも含めた関係者から事情聴取, 意見交換を行う。

月 日	行 動		
3月25日(木)	午後		宮山団長の部屋で大臣、次官との会談内容等についてReviewをする。
	午前	11時30分	Can - Tho 大学行きの準備 Hotel majestic を出発しタンソニット空港に向う。 13時10分のCan-Tho行きが14時に変更 14時45分Can-Tho着川本、太田両専門家の出迎えを受け両専門家が宿泊していを播忠旅店に同宿する。 専門家Living Roomとして使用している505号室で日程その他の打合せ
3月26日(金)	午前	6時 7時15分	起 床 ロンセンに向う。農地改革1周年を記念し、国が農業祭をここロンセンで催したものである。 文部大臣からも是非見るようにとの奨めもあり、丁度Can-Tho大学農学部1年の学生60数名のStudy Ture でもあり、我々も同道し見聞を広めることにした。 車中専門家と懇談。
	午後	5時30分	Hotel に帰る、夜はCan-Tho 大学学長からの招餐。
7月27日(土)	午前		学長官舎でTruong 農学部長と会談、農学部の現状と問題点などにつき一般的を説明を受く。宮山団長からは詳細な調査内容について説明をし、月曜からの打合せに備えをして頂く。
	午後		農学部長との会談内容を含め、両専門家からの事情聴取、種々の問題点について意見を聞く。
3月28日(日)	午前		Mekong河に沿って開かれる朝市の見学。

月 日	行 動		
3月29日(月)	午後		昨日に引き続いて両専門家からの事情聴取、意見交換を行う。
	午前		学長官舎で農学部長との会談、川本専門家も出席、過日宮山団長より提示のあった問題点、調査内容について細部の報告がなされた後、懸案事項の検討に入る池田団員は太田専門家の案内で農学科関係者との懇談、農学系カリキュラムの編成内容を検討する。
		11時半 すぎ	農学部長の案内で日本人専門家へ貸与される予定の宿舍を視察。 昼食後、宮山団長は Truong 農学部長との個別会談。
	午後	3時より	両専門家との懇談、夕食後も引き続き行う。
3月30日(火)	午前		Xuan 学長との会談、Truong 農学部長も出席、宮山団長より農学部との会談内容について報告がなされると共に学長の確認と予解を得る。
	午後	4 時	柏原団員は川本専門家の案内で畜産学科関係者との懇談、畜産学系カリキュラム編成内容について検討を行う。 Truong 農学部長の案内で New Campus 予定地を視察 夜は、調査団主催による夕食会、Xuan 学長 Truong 農学部長はじめ農学部関係者を全員招待する。
3月31日(水)	午前		調査内容の整理を両専門家を交えながら行なう。 昼食は Can-Tho 大学創立 5 周年記念のレセプションに出席。
	午後		農学部助手の案内で Mekong 河に浮ぶ島へ農村の実情視察。

月 日	行 動		
4月 1日(木)	午前		両専門家と最後の意見交換, 処理事情などについてメモを渡す。
	午後	1時25分	Can-Tho を飛びたち Saigon に向い, 藤田書記官の出迎を受け, Hotel Majestic に落ち着く。
4月 2日(金)	午前		大使館へ行き, 藤田書記官, OTCA石崎調整員に Can-Tho 大学での会談内容報告する。
	午後		Joint Committee 設置に関する Record of Discussion の Draft を大使館で作成する。
4月 3日(土)	午前		ピエンホアにある VIKYNO (久保田鉄工の技術協力による農機具工場) を視察。
	午後		Saigon 市内見学 夜, 大使主催の晩餐会, 大使公邸
4月 4日(日)			各自調査内容の整理, 休息
4月 5日(月) 国民祝日	午前		調査団員の Meeting を持つ, 就中明日の文部大臣との第二回目の会談にそなそその内容を検討する。 昼食後に大使館, 藤田書記官をまじえ更に内容の細部打ち合せを行う。
	午後		川本, 太田 両専門家が Can-Tho より来られる。
6月 6日(火)			文部省本部で, 文部大臣との第2回目の会談, Can-Tho 大学関係者との打合せ内容を報告すると共に Joint Committee の設置について検討をする。
	午前		Joint Committee 設置に関する

月 日	行 動	
4月 7日(水)		AgreementのサインとR & Dの取扱いについて大使館、藤田書記館、川島書記官と相談打合せをする。 夜、文部大臣主催のレセプション。
4月 8日(木)	午前	文部大臣の招待でNHA-TRANGの海洋研究所を訪問する。
	午後	特別チャーター機でNHA-TRANGよりSAIGONに帰る、大使館へ行き、帰国挨拶、
4月 9日(金)		帰国準備 Hotel Majesticを出発 タンソニット空港に向う。 10時40分KE502便でHong-Kongに向う、Hong-Kong着12時50分 Hong-KongでJL004便(15:00発)に乗り換え、19時50分東京羽田空港着

1.2.3 研修員の受入れ

カウンターパートの受入れは、非常に重要なことである。本年は、3名の研修員を受入れることにし、特に本協力最初の受入れと云うことから、農学部長(Dr Nguyen Viet Truong)大学事務局長(Mr Nguyen Van Vang)農業工学科主任(Mr Nguyen Phu Thien)と最も関係の深い3名を受入れることとした。A2A3フォームの提出が遅れたこともあったが、予算的制約から9月27日から2週間とした。

農学部長から河西サイゴン事務所長にあてた訪日目的、要望は次のようなものであった。

August 31, 1971

Mr. A. Kasai
Head,
Resident Representative,
OTCA Office,
Saigon

Dear Mr. Kasai,

Thank you so much for your letter of August 28 (Ref-269/71B) informing us about our visit to Tokyo.

As you already knew, although the purpose of visit was stated as "To study the organization of Japanese University and Higher Agricultural Education", the main objective of this visit is to review and to discuss about the aid to our Faculty with Japanese officials from the OTCA and the Ministry of Education. In addition we would like to have opportunities to thank all those who have helped this project and also to make contacts with Veitnamese students and graduates in Agriculture.

If visits to Universities were necessary then we would like to visit only 2 or 3 southern most Universities, Kagoshima is among them, since I have already visited several Universities in Tokyo, Nagoya, Kyoto, Osaka areas during my visit as guest of the APU and South East Asia Agricultural Development Association.

Therefore I would be most grateful if you could convey our wishes to Tokyo

Our thanks and best wishes.

NGUYEN VIET TRUONG

この要望をふまえた次のような日程を組んだ。就中、文部省からは教育行政に関する研修の他、留学生の受入れについての説明をお願いした。

月 日	午 前	午 後	泊
9月		J A L 4 6 2	
27日(月)		22:20分羽田着	A C
28日(火)	10:00 ブリーフィング	3:00 O T C A 表敬	A C
29日(水)	10:30 文部省表敬	2:00 外務省表敬	車中
30日(木)	車 中	6:00 東京発はやぶさ	鹿児島
10月	10:00	1:30	
1日(金)	鹿児島大学	鹿児島大学	鹿児島
2日(土)	9:40 西鹿児島発 かいもん1号 12:54 熊本着	10:15 熊本発 明星2号	車中
3日(日)	9:57 新大阪着 自 由	自 由	大阪
4日(月)	10:00 久保田鉄工株式会社	3:00 新大阪発 ひかり56	
5日(火)		6:15 東京着 3:00 日本国際教育協会	A C A C
6日(水)	10:00 O T C A 打合せ	2:00 A P U 表敬	A C
7日(木)	10:30 文部省研修(O T C A)	1:30 文部省研修(O T C A)	A C
8日(金)	10:30 東京農大	2:00 東京大学	A C
9日(土)	O T C A 打合せ	自 由	
10日(日)	帰 国		

A C : アジア会館

1.2.4 専門家の派遣

協定による長期専門家の派遣は4名であるが、本年度は巡回指導調査団の団員でもあった池田三雄鹿児島大学農学部教授を長期農学分野の教授として派遣した。又短期専門家の派遣については、工学機器利用の専門家として宮里満鹿児島大学農学部講師、農学実験用機器の利用として井之上準九州大学農学部助手を3ヶ月の期限で派遣した。

1.2.5 ヴィエトナム・カントー大学農学部運営に関する協議会の設置

現地の Joint Committee に対応し、本協議会を設置することとしたが、特に教育協力の特殊性から、多くの関係者から意見を聞くことにした。協議会の設置要領は次のようなものである。

1.名称

本会はヴィエトナム・カントー大学農学部協力事業運営に関する協議会と称する。

2.目的

本会は、海外技術協力事業団が外務省より委託を受けて行なう当該協力事業の実施運営に関する協議をなし、以って本協力事業の発展に寄与することを目的とする。

3.協議事項

本会は前項の目的を達成するため、次の事項について協議を行なう。

- (1) 本協力事業の有効な実施運営に関すること。
- (2) ヴィエトナム側合同委員会からの要請に関すること。
- (3) 本協力事業関係大学との提携に関すること。
- (4) 本協力事業にかゝる諸資料の提供および分析に関すること。

4.会議の開催および招集

協議会は必要に応じ開催するが、2ヶ月に1回定例会議を開催することを目的とする。

5.意見具申

本会は協議の結果に基づき、必要に応じ、海外技術協力事業団へ意見具申をするものとする。

6.庶務

本会の運営にかゝる庶務は、海外技術協力事業団農業協力部が行なう。

2. 技術情況報告

2.1 全般的事項

- (1) サイゴンのHotel 住いからカントーの現地へ移動，川本，太田両専門家は昭和45年8月，ヴィエトナムへ赴任したが，現地の宿舍事情のためサイゴンのMajestic Hotel に逗留していたが，1月15日にカントーに移り，市内のPhan-Trung Hotel に滞在し，毎日農学部長の車で大学へ通勤することになった。両専門家の研究室をはじめ助手も決まり，日本人専門家係りも決められた。この時点で，川本専門家は第3年次学生に水産学セミナーを開始し，太田専門家は第4年次で担当する「遺伝学および植物育種学」の講義原稿の準備を始めるとともに学生や助手諸君を対象に顕微鏡の使用法や科学研究に対する態度についての指導を始めた。
- (2) 川本専門家が農学部長官舎へ移転
川本専門家は農学部長のすすめに従って4月にPhan-Trung Hotel から農学部長官舎に移転した。教室が近くなったため午前・午後とも研究室に歩いて行くことができ，メコンデルタの淡水魚類の研究が進捗した。
- (3) 池田専門家の着任
池田専門家は6月18日東京を発ち，サイゴンで11日を過した後，6月29日にカントー大学に着任した。新学期が始まるまでは，ヴィエトナムの農業事情を把握するために文献資料の調査をはじめカントー周辺地区の実地視察を行なった。
- (4) 小論文の指導
ヴィエトナムは7，8，9の3カ月が夏季休暇で，学生たちは帰郷し，あるいは軍事教練に行くが，休暇に入る前に3年生の小論文指導がある。これによって第4年次への進級が決まるわけであるが，川本専門家は2名の学生を担当しTilapia sp の塩類に対する影響とPHに対する作用について指導し，太田専門家も4名を指導した。
- (5) 合同宿舎への移転
日本人派遣専門家のためにその第4階を提供された合同宿舎が10月完成し，3専門家ともこれに移転した。

(6) 新キャンパスの圃場，その他施設

現在のキャンパスは5 ha で，ここに文学部，教育学部，法・社会学部および農学部校舎があり，農学部学生のための実習圃場は約1 ha に過ぎない。新キャンパス(87 ha)中に農学部の用地としては30 ha が割当てられているので，この用地に学生実習のための水田圃場を設け水稻の栽培が行なわれた。

また，農学部校舎に隣接して設けられていた牛・豚舎は，構内の東方に移し，その跡に農業機械格納庫ができ，一方，オーストラリア供与の発電機装置のための家屋も完成し，牛舎，豚舎のほか鶏舎，家鴨舎も新築され，また構内の水溜りをなくすために大きなコンクリート管の敷設工事も構内全敷地にわたって着々と進められている。

(7) 10月新学期開始

昭和46年10月の新学期より第4年次学生ができ，これで農学部学生も満杯となった。太田専門家は第4年次学生から「遺伝学および植物育種学」の講義を開始するとともに，サイゴンの国立農業大学(NAC)より乞われて遺伝学の講義を引受け農学部長の承諾を得た。1972年2月から実施予定。池田専門家は1972年2月から授業開始予定で，そのための講義原稿並びにチャートの作成に専念している。

2.2 専門的事項

2.2.1 作物・園芸関係(池田三雄専門家)

池田三雄専門家は6月18日東京出発，同日サイゴンに到着，カンターには6月29日着任した。

(1) 着任後，10月下旬までは主としてヴェトナムの農業事情を把握するため，資料文献の調査，果樹農家や花卉園芸農家の視察，浮稲栽培地帯やニューキャンパス水田やメコンデルタ南東地区などを視察して資料収集につとめた。

(2) 10月下旬に至り，4年次学生に果樹についての講義担当が決定し，12月27日には10カ月の軍事訓練を終えて帰学した助手のLe Dinh Suy

が池田専門家のカウンターパートとなり、果樹の実験実習を共同担当することになった。

講義内容はバナナ、パインナップル、※柑橘、※マンゴー、マンゴスチン、パイナップル、ジャクフルーツ、ドリアン、Soursop, Longsat, Longan, Sugar-apple, Guava, Rose-apple, Rambutan, Sapodilla, Carambala について行なう（※印のものは本年度は外来講師が担当する）以上の果実のうち主としてパイナップルまでは講義に汎論的内容を含めるが、ジャクフルーツ以下については記載と特徴的形質の説明にとどめることとした。

実験実習では果実の肉眼および拡大鏡による記載、顕微鏡による組織観察各種の栄養繁殖法、根群調査、整枝および剪定、果実の評価などを行なう。

なお、講義原稿、学生用テキストおよび講義用チャートの作製を行なった。さらに、各種果実の市場調査を行なうとともに、Lime, Orange Pummelo Durian, Mango, Soursop, Longan については果樹の播種育苗も行なった。

(3) 12月から下記4年次学生3名の果樹についての卒業論文を指導することになった。

- Pham Van Auang : Studies on the germination and the dormancy of Papaya seeds
- Le Thank Duong : Effect of covering Banana Branch with plastic film bag.
- Tran Van Chinh : Studies on the relationship between growth of Papaya and PH of Soil
- " : Histological studies on Papaya infected with virus Compared to the healthy plant.

また、助手 Vo Than Suan のメコンデルタにおける大豆の研究についても協力することになり、試験設計の検討を行なった。

2.2.2 遺伝学および植物育種学（太田泰雄専門家）

(1) 講義（年間30hsの講義と45hsの実習，1.5単位）

「遺伝学および植物育種学」は第4年次学生を対象とした授業科目で、1971-'72教育年度の11月から始めて開講された。ヴェトナムでは高校および大学の一般教養課程で遺伝学を学習していない上に、抽象概念や確率、統計学を必要とする学問分野であるため、学生はかなりの努力をしているように見受けられたが、農学部長は過半数の学生は太田専門家の英語による講義についてきていると判断している。

講義の理解をたすけるためJ.F.CrowのGenetics Notesから必要な箇所を抜粋してプリントを作り学生に配布している。

実習指導については、助手が行なうのがこの国の慣例であるが、遺伝学実習を指導できる助手がいなため、太田専門家が実習の設計を行ない、植物生理学実習と遺伝育種学実習の両方を担当するPhan Van Chuong助手に要点を教えて実習を実施し、太田専門家が随時見廻りながら学生の質問に答えるという方法がとられている。

講義および実習の概要を示すと次のような内容についての基本的な理解に重点がおかれている。Mendelism, genotype and phenotype, probability, Chromosome behavior, free assortment of genes, linkage など、なお追加的説明としてはLife cycle, multiple alleles, and gene interaction, Genetic fine structure, and chemical basis of the gene, Biochemical genetics, and immunogenetics, mutation, and chromosome changes, Quantitative inheritance, and cytoplasmic inheritance, Breeding methods with both self-and cross-pollinated crops が含まれている。また学生の実験実習テーマにはThe microscopic observation of mitosis, meiosis and pollen grains, The controlled pollination in certain crops, The observation and scoring of characters, The statistical analysis of the data などが取りあげられている。

次に太田教官の「遺伝学および植物育種学」の実験実習のカリキュラムを

示すと次のとおりである。

UNIVERSITY OF CANTHO

FACULTY OF AGRICULTURE

Genetics and Plant Breeding
by Yasuo Ohta and Phan van Chuong

Academic year: 1971-72

Curriculum of the Laboratory Practice

No.	Month	Subject	Material
1	XII	Toss study of the basic principles in genetics	<u>Coin</u>
2	I	Mitosis: Microscopic preparation and observation	<u>Allium</u> <u>Hordeum</u>
3	I	Meiosis: Microscopic preparation and observation	<u>Hordeum</u> <u>Zea</u>
4	I	Gametogenesis: Microscopic preparation and observation	<u>Hordeum</u> <u>Zea</u>
5a	II	Observation of stem, leaf and flower characters	<u>Capsicum</u>
6	II	Pollen analysis: Microscopic preparation and observation	<u>Zea</u>
7a	II	Controlled pollination, I	<u>Zea</u> , <u>Capsicum</u>
8	III	Statistical analysis of the data, I	<u>Calculator</u>
5b	III	Observation of immature fruit characters	<u>Capsicum</u>
9	III	Statistical analysis of the data, II	<u>Calculator</u>
5c	IV	Observation of mature fruit characters	<u>Capsicum</u>
7b	IV	Examination of the cross and scoring of kernels	<u>Zea</u>
7c	IV	Sowing and observation of seedling characters	<u>Capsicum</u>
10a	IV	Controlled pollination, II	<u>Oryza</u>
10b	V/VI	Examination of the cross	<u>Oryza</u>

(2) 特別セミナー

農学部の手諸君を対象として、随時特別セミナーを実施した。その主要なものを掲げると次の3回である。

1) 顕微鏡の使用法と取扱い注意(2月18日, 約2.5hs)

学部長も同席し、特にヴェトナム語で補足説明をしてくれた。

2) 科学者としての心構えと研究の諸原則(2月20日, 約2.5hs)

ガラス器具の洗滌法など基本的問題から導入し、研究を進める上での諸原則を述べ、大学卒業後の約10年余が研究者としてもっとも創造的時期であることを強調した。

3) 遺伝暗号の解説(5月8日, 約2.5hs)

雑誌「Time」の最近刊遺伝特集号の理解を助ける意味をかねて、遺伝暗号の解説がいかになされたかについて解説を行なった。

(3) 小論文指導

2月初(テト休暇あけ)から第3年次学生34名に対してそれぞれ小論文課題が課せられ、そのうちの4人を太田教官が担当した。研究課題について実験方法、データ処理、考察に導き、最後に小論文の取りまとめを指導し、11月の5~6日に口頭発表会をもち、その後タイプした論文を提出させた。学生名と論文表題は次のとおりであった。

Do van Chuong: Inheritance of certain characters in the M-Go hybrids of red pepper. (43 pages)

Nguyen phũ Dong: Inheritance of the waxy character in rice. (18 pages)

Doan thi Hong Hoa: Inheritance of the genes restoring pollen fertility in cytoplasmic male sterile maize. (42 pages)

Huynh thi Tuyet Nga: Inheritance of some characters in the red peppers, Part II. (32 pages)

また、11月下旬から新3年生2名に対して小論文指導を開始した。学生名および課題名は次のとおりである。

Do van Nguyen: Genetic studies on the characteristics of a red pepper cultivar Cuneo from Italy and its performance in the Mekong Delta.

Nguyen Tang Ton: Inheritance of the glutinous character in rice.

(4) 卒論の指導

上記4名のうち3名が、第4年次学生として引続き「遺伝学及び植物育種学」の卒論研究をしたい旨申出たため、11月下旬より卒論指導を開始した。3名の学生名は次のとおり、卒論のテーマは前年度の小論文テーマを基本的には同じである。Do Van Chuong, Doan thi Hong, Hoa, Haynh thi Tuyet Nga.

(5) 研究活動並びに助手諸君の指導

乾季作(12月~4月)および雨季作(4月~10月)の2期にわたって、実験材料の Capsicum, Oryza および Zea を栽培し、それぞれの課題に従って形質調査、選抜、交配、採種および播種を行なった。これらは単に研究のためだけでなく、小論文指導用にも用い、本年12月からの乾季作は、小論文および卒業論文の指導用のほか、第4年次学生に対する遺伝学および植物育種学の学生実習にも使用される。

また、上記の1部は助手 Mr. Phan Van Chuong との共同研究でもある。なお、本研究の1部は、Yasuo Ohta and Phan Van Chuong : Identification of the genotype of cultivar Ionia as to the Rf genes. として短報にとりまとめ、農学部長の承認も得て、カントー大学農学部研究業績として米国の Maize Genetics Cooperation News letter に投稿した。さらに、学部長補佐の Mr. Nguyen phi Long (現在英国留学中) が核型分析によってバナナの分類を試みたいと申出たので、染色体観察法を実地指導した。

その他、農学科長兼農場長 Mr. Tran Dang Hong および助手 Mr. Phan Van Chuong にイネおよびソルガムの交配法を、農業工学科長 Mr. Nguyen Phu Thien に竹の斑紋について、病斑か種特有の遺伝的なものかの検定法を、また竹の挿木についての発根促進方法(植物ホルモン、薬品処理、特に濃度を時間の関係)を、また Mr. Huynh Cong Tho および Mr. Hang An (理学部の植物学科長) にメコンデルタ地帯の水田雑草について調査し、モノグラフとして出版することなど、それぞれの相談に対して助言活動を行なった。

(6) 太田専門家は、農学部長の了承を得、OTCAの特段の配慮によって、カントー大学教官の資格をもって国際会議に出席し、また、日本の学会に

も出席する機会が与えられた。

a) 第1回「Capsicum の遺伝と育種」国際会議

(Sept. 16-18, 1971, イタリア・トリノ大学)

講演題目 : Nature of a cytoplasmic entity causing male
sterility in Capsicum annuum L.

なお、講演要旨はカントー大学紀要 Nien-San に掲載予定である。

b) 日本育種学会第40回講演会

第13回シンポジウム

(Oct. 6-8, 1971, 弘前大学)

講演題目 : シンポジウム「接木変異と形質転換」本研究に関連する最
近の西欧事情

内容は高等植物体内への外生DNAのとり込みとその遺伝的効果に関
する最新の情報について報告した。

c) 第193回三島遺伝談話会

(Oct. 13, 1971, 国立遺伝学研究所)

講演題目 : 高等生物におけるDNAの取り込みとその遺伝的効果に関
する最近の西欧事情

(7) 現地調査

a) 1月16日, Vinh Long (ビンロン) 町郊外メコン川本流の Tan
Phong 島ほか1島に渡り, レモン園2カ所(1つは在来の無施肥栽培,
他は施肥栽培), および日本人経営のパナナ園(42ha)を視察した
(3年生の野外見学旅行に同行)

b) 3月12-13日, 西海岸の港町, Rach Gia (ジャクジャ) へ, 同
地方の農業と魚市場を視察。(2年生の見学旅行に同行)。

c) 4月7-8日, 東海岸の Nha Trang (ニャチャン) 市へ, 国立海洋
学研究所を視察。(OTCA巡回指導調査団のVN文部次官招待旅行に
同行)

d) 5月20-29日, 中部ヴェトナムの古都 Hue (フエ) へ, フエ大
学理, 医, 教育学部, 水産試験場, フエ旧王城等を視察。(農学部助手
Mr. Nguyen Thai Vu の案内)。

e) 5月31日。カントー市郊外, メコン川上の Con Son 島へ, 協同経

営 (coop) による農漁業を視察。(英国政府海外開発省の Mr. A. R. Mehrille 等同行)。

- f) 7月23日。カントー市郊外, Tan phu Thanh 村の典型的農家を訪問。果樹園を視察。(農学部長の案内)。
- g) 8月24日。Ca Mau (カマウ) 半島, とくに U Minh ((ウミン) 森の平定作戦完了直後の状況を視察。各地の土壌試料を採取。マングローブの森や熱帯作物の栽培状況を視察。(農学部長の案内)。
- h) 10月20-22日。Dalat (ダラット) Ban Me Thuot (バンメトウ) に農業試験場を訪問。前者は南ヴェトナムの冷涼高原(標高1,500m), 後者は平原台地(500m)で, ともにメコンデルタとは全く異なる。そこでの温帯ないし亜熱帯作物の栽培状況を視察。とくに, NAC 援助のフロリダ大学がその大学院学生の現地研究をいかに進めているかを知ることができた。(フロリダ大チームの Dr. M. E. Marvel の案内)。
- i) 11月21日。Sa Dec (サデック) に花卉園芸の実情を視察。(農学部長の案内)。

2.2.3 畜産学関係(水産学を含む)(川本信之専門家)

(1) 畜産学科の現状

畜産学科には現在のところ日本から畜産専門家の派遣がなく, 水産関係に川本専門家が派遣されているだけである。学科主任の助手 Mr. Quoc は現在フィリッピンに留学中で, 僅かに助手の Mr. Dung が学生の指導に当っており, 講義の多くは学部長(牧草学専攻)と非常勤講師に依存している。

(2) ヴィエトナムにおける水産学の実状

水産関係の主務官庁は Ministry of Fisheries で, 長官の Mr. Tri は水産専門家ではなく, 次長の Mr. Dang も林学出身者である。水産試験場のうち Thu Duc, Tay Ninh, Dalat, Hue などを見学したが, 試験設備はほとんどなく, 研究もほとんど行なわれていない。川本教官の助手はサイゴンの国立農業大学において水産学を専攻した卒業生であるが, 在学中に魚類分類学と水産漁獲法について習った程度である。一般民衆は雨季に

洪水で流れてきた魚が乾季に水溜りに生残ったのを喰べており、またメコン河で魚やエビを漁して市場で売っているだけで、水産増殖や漁業全般にわたってもこれからという段階である。現在養殖計画が進められているのは海水産および淡水産のエビ類だけで、それも餌料の研究がおくれているのは僅かにコメヌカを撒布しているだけである。最近、大洋漁業KKと大南公司とでトロールによる海産エビの大量漁獲が開始された由であるが、天然餌料としてのプランクトンが少いため漁獲の微減が心配されている。

(3) 水産学の講義

川本教官は、セミナーとして月3hs 教えることとされているので、水産学の基礎知識を与える目的で、次のような内容の講義をした。

セミナーの題目(1971年6月より(1)~(7)まで)

- (1) Production of Fishes in the Fish-farm, special emphasis on the intensive Carp culture.
Part I. On the ammonium nitrogen in the Fish-farm.
Part II. The intensive Carp culture.
- (2) Embryology of Fishes.
- (3) On the fertilization and spawning of Grass-carp (Ctenopharyngodon idellus)
- (4) The Hormones in Fishes.
- (5) Limnology and Oceanography.
- (6) On the blood circulation of Fishes, and its physiology.
- (7) On the physiology of fish respiration.

(8)以下は1972年度題目

- (8) Osmotic pressures in the water.
- (9) Sensory physiology of Fishes
 - a. On the olfactory senses.
 - b. On the auditory senses.
 - c. On the Optic senses.
 - d. On the Taste senses.
- (10) Influences of environmental factors for Fishes.
- (11) On the live transportation of Fishes

講義に際しては、あらかじめ英文の講義要録をコピーして前日に学生諸君に渡し、一方助手に講義の意味を十分教え込んで、教室では講義の一段らく毎に助手にヴィエトナム語で要点を説明させ好成績を得ている。また、図についてもあらかじめコピーして講義の要録とともに学生に配付することにした。さらに、講義原稿は水産局次長 Mr. Dang が切望しているので、その都度送付している。

(4) 小論文と卒業論文の指導

新3年次学生6名の小論文および新4年次学生2名の卒業論文の指導を行っているが、その氏名と論文題目は次のとおりである。

Class	Name	Subject
3rd.	1. Li-tien Si	} Influence of fish blood by the effect of various environmental factors.
	2. Tahi van Thong	
	3. Dàng than Ho	----- Study on the structure of swim-bladder by Softex X-ray
	4. Phan van Ty	} Current of water and Salinity in the Mekong river.
	5. Le tan Ton	
	6. Bui ngoc Phung	
4th	1. Du quang Dung	----- Influence of various factors on the heart pulsation of the bivalves.
"	2. Nguyen tan Nam	----- The taxonomic studies on the fish scales.

(5) 研究活動

農学部長からの要請もあり、カントー大学の紀要に次の論文を投稿した。

“ On the unusual swimming type of Fishes , and their Swim-bladders ”

なお、当地へ赴任以来、「メコンデルタにおける淡水魚の研究」をテーマとして研究を積み今日までに約120種の珍魚を調査した。また、皇太子殿下のハゼ科魚類の御研究の資料に、当地で得たハゼ類を大使館の配慮を得てお届けしている。メコンデルタの淡水魚の収集については、カント

—大学の Xuan 学長はじめ， Truong 農学部長の理解ある御配慮と御支援
によるものであった。

3. 協力事業の背景

3.1 南ヴェトナムの教育事情の変化

3.1.1 教育省の人事異動 (1971.6)

各方面に教育界の躍動が感じられ、6月に教育刷新の意味であろうか教育省に大臣の異動があった。新教育大臣にmr. Ngo Khac Tinh が任命された。また、新官房長にはMr. Nguyen Xuan Hue が任命された。

3.1.2 サイゴンの国立農業大学の移転計画に大学院修士課程の設置

サイゴン大学のThu Duc地区への移転計画については「ヴェトナム・カントー大学農学部 援助協力に関する巡回指導調査報告書, 1971.7」に報告したが、国立農業大学についても、米国の援助によって同地区に新校舎を建設中である。なお、同大学は、1971-72教育年度から大学院修士課程を開設した。

3.1.3 高等教育機関の新設

タイニン省 (Tay Ninh) タイニン町に、Vien Dai Hoc Cas Dai の設立が8月に政府から許可され、また、1970年10月ロンセン (Long Xuyen) に開校したDai Hoc Hoa Hao 大学も、日本その他諸外国から援助を得てChau Doc に農学部 (さしあたり農学と水産学のみ) を開設したい意向のようである。

その他、ミト市 (My Tho) に新しくDai Hoc Tien Giang 設立の計画が進められている。

3.1.4 米国オハイオ大学チーム引揚げ

ヴェトナムの各国立大学の教育学部にこれまで常駐していた米国オハイオ大学協力チームは、1971年6月末日をもって任務を完了し、すべて大学を引揚げた。従って7月1日以降は、サイゴンのUSAID事務所内にもみ公式なオハイオチームが残ることになった。

3.1.5 ヴィエトナム高等教育事情について

1971年5月、サイゴンポスト紙に連載された「ヴィエトナムの高等教育事情」は、ヴィエトナム側の資料だけに大変興味深いものがある。その概要は、海外技術協力事業団の機関誌「海外技術協力」（1972. 4）に宮山が報告している。

3.2 カントー大学における教育事情の変化

3.2.1 大学院修士課程の開設準備

サイゴンの国立農業大学の大学院修士課程設置に対応して、カントー大学においても、理学部と農学部とにまたがる大学院修士課程を本教育年度（1971/72年）内にも開設すべく準備中であるが、実際には1972年10月頃（1972/73教育年度）からとなる公算が大きいように思われる。コースとしては物理系、化学系、生物系の3コースが予定されているが、このうち生物系については農学部が中心となり、日本からの供与資機材の一部をこれに充当する方針のようで、また校舎はとりあえず理学部の構内の第2校舎（現在新築中の本建築建物）の一部が使用される予定である。当面は現在の教官陣（助手クラス）のレベルアップを目標とし、やがては学部新卒者をも進学させるようになる。

3.2.2 本年中に海外に留学した農学部教官

農学部の教官で本年中に海外に留学したものは次の6氏である。

Nguyễn Đức Thành	3月	米国
Trần Văn Hòa	7月	比国
Nguyễn Văn Huỳnh	"	"
Võ Ái Quốc	"	"
Nguyễn Phi Long	9月	英国
Nguyễn Thai Vũ	"	"

3.2.3 農学部教官陣容（1971/72教育年度）

1971/72教育年度におけるカントー大学農学部教官陣容を示すと次のとおり

である。

カントー大学農学部教官名簿（1971—72教育年度）

氏 名	役 職 名	担 当 教 科
Nguyễn Việt Trường	学部長 副教授	植物生理学
Nguyễn Phú Thiện	学部長補佐(教務) 助教授 兼農業工学科長	農業機械化
Phạm Văn Kim	学部長補佐(事務) 助 手	植物病学
Trần Đăng Hồng	農 場 長 "	稻 学
Võ Tổng Xuân	農学科長(代理) "	"
Phan Văn Chương	農 学 科 "	植物生理学及第2作物
Nguyễn Dương	" "	農業化学
Hà Huy Hoàng	" "	農業経済学
Lê Đình Quý	" "	果 樹
Huỳnh Công Thọ	" "	土 壤 学
Huỳnh Công Tiên	" "	化 学
Lê thị Sen	" "	昆虫学
※ Trần Văn Hòn	" "	稻学(比島留学中)
※ Nguyễn Văn Huỳnh	" "	昆虫学(")
※ Nguyễn Phi Long	" 上級助手	農学(英国留学中)
※ Nguyễn Văn Nhiều	" 助 手	" (比島留学中)
Châu Văn Dũng	畜産学科長(代理) "	獣医学及家畜飼養
Trần thị Tuy Hoa	畜 産 学 科 "	水 産 学
Trần Lam Huyền	" "	獣医学及家畜飼養
Vũ Ngọc Ruyen	" "	水 産 学
Trần Thanh Tịnh	" "	"
※ Nguyễn Thượng Chánh	" "	獣医学及家畜飼養 (タイ国留学中)
※ Võ Ái Quốc	" "	" (比島留学中)

※ Nguyễn Văn Nhieu	畜産学科	助手	水産学（米国留学中）
Phạm Thanh Bạch	農業工学科	"	農業機械
Nguyễn Văn Ni	"	"	"
※ Nguyễn Thái Vũ	"	"	"（英国留学中）

※印は海外留学中で不在

3.2.4 農学部 of 授業科目と担当教官

1971/72教育年度におけるカントー大学農学部の授業科目と担当教官を示すと次のとおりである。

カントー大学農学部 授業科目及担当教員名簿 (1971-72教育年度)

氏名	職務	専門	担当教科	学位	学位授与校
Pham thanh Bach	助手(農工)	原動機学	同左	KS 1) (1965)	サイゴン工大
Phan van Chuong	" (農)	植物生理学	同左実習, 遺伝学実習, 園芸学実習	" (1969)	サイゴン農大
Chau van Dung	畜産学科長(代理)	家畜栄養学	動物生理学実習, 家畜飼養(豚, 鶏, アヒル, 牛, 水牛)	" (1968)	"
Tran thi tuy Hoa	助手(畜)	水産学	養魚	" (1970)	"
Tran dan Hong	農場長	稲学	農業入門, 農業気象, 稲の植物学的特性, 植物生理学実習	" (1964)	"
Ha huy Hoang	助手(農)	農業経済学	農業経済及法律	" (1967)	"
Tran lam Huyen	" (畜)	畜産学	動物生理学実習	" (1968)	"
Pham van Kim	学部長補佐(事務)	植物病学	微生物学実習	" (1965)	"
Nguyen van Ni	助手(農工)	農業機械	同左, 灌溉	" (1970)	"
Le dinh Quy	" (農)	果樹学	第2作物実習, 植物生理学実習, 果樹実習	" (1970)	"
Vu Ngoc Ruan	" (畜)	畜産学	"	" (1971)	"
Le thi Sen	" (農)	昆虫学	同左実習, 作物防 実習	" (1965)	"
Nguyen phu Thien	学部長補佐(教務) 兼農業工学科長	農業機械化	統計学, 灌溉, 農業機械, 実験技法	MAE 2) (1969)	カンターベリ ー大(ニュー ージーランド)
Huynh cong Tho	助手(農)	土壌学	同左実習, 第2作物実習	KS (1969)	サイゴン農大
Huynh cong Tien	" (農)	化学	同左実習, 土壌学実習	" (1969)	サイゴン工大
Tran thanh Tinh	" (畜)	畜産学	"	" (1971)	サイゴン農大
Nguyen viet Truong	学部長	熱帯牧草	植物生理学, 家畜飼養(牛, 水牛)	Ph.D. (1968)	クイーンズラ ンド大(オー ストラリア)
Vo tong Xuan	農学科長	稲学	稲作, 稲の生理学的特性, 土壌学, 実験技法	M.S. (1967)	フィリピン大 (フィリピン)

1) Ky su (技師) 2) Master of Agr. Engineering

氏名	所	属	専門	担当	教科	学位	学位授与校
Hàng An	カントー大・理・植物学科長	植物分類学	植物分類学	植物分類学		CN ⁽³⁾	サイゴン大
Lê Văn Đăng	水産局次長 (農林省)	養魚	養魚	養魚		KS	ハノイ農大
Stephen Dille	USAID/Agriculture	家畜飼養	家畜飼養	家畜飼養 (豚, 鶏, アヒル)		DVM ⁽⁴⁾	ミネソタ大 (米国)
Nguyễn Đông Giang	農薬局長 (農林省)	農薬機械	農薬機械	農薬機械		大学院 修了	シルソナー大 (英国)
Nguyễn thành Hải	サイゴン農大 学長	畜産学	畜産学	動物生理学		DVM	カンサス大 (米国)
Luu Trọng Hiều	" 獣医畜産学部長	"	"	"		Ph.D.	メリーランド大 (")
Phạm thị Xuân Hương	カントー大・法	経済学	経済学	セミナー		M.A	モナシ大 (オーストラリア)
池田三雄	日本人専門家	果樹	果樹	果樹		農博	九大 (日本)
川本信之	"	魚分類学	魚分類学	セミナー		理博	北大 (")
Nguyễn Đăng Long	サイゴン農大 農学部 学長	植物病学	植物病学	微生物学, 作物防疫		Ph.D.	ルイジアナ大 (米国)
Võ Đình Long	農薬研究所 (農林省)	第2作物	第2作物	第2作物		Ph.D.	イリノイ大 (米国)
Châu Tâm Luân	サイゴン農大	農業経済	農業経済	農業経済及法律		Ph.D.	
Phùng trung Ngân	サイゴン大・理・植物学科長	生態学	生態学	生態学		Ph.D.	
Ngô Đình Ngoan	植物保護課長 (農林省)	昆虫学	昆虫学	昆虫学, 作物防疫		B.S.	フロリダ大 (米国)
太田泰雄	日本人専門家	遺伝学	遺伝学	遺伝学及植物育種		農博	京大 (日本)
Nguyễn Hoàng Sơn	カントー 農業高校 長	果樹	果樹	果樹		M.S.	フロリダ大 (米国)
Nguyễn Lam Sơn	フオンジン省 農業課 長	水産学	水産学	水産学		KS	サイゴン農大

氏名	所	属	専門	担当教科	単位	学位授与校
Trần Văn Thu	公共事業省			測量	Dr	パリ大(フランス)
Lê gia Tồn	サイゴン農大		園芸学	第2作物及園芸学	M.S.	フロリダ大(米国)
Đặng Văn Trên	カントー大・理		地質学	地質学実習	CN ⁽¹⁾	サイゴン大
Bùi Văn Trố	サイゴン農大		畜産学	畜産学入門, 家畜栄養学	Ph.D.	コーネル大(米国)
Nguyễn thanh Tùng	カントー大・理		数学	数学	CN ⁽¹⁾	サイゴン大
Thái công Tụng	農業研究所長(農林省)		土壌学	土壌学	TSKS ⁽⁵⁾	"
Lê quang Xáng	カントー大・理		地質学	地質学	TSDTC ⁽⁶⁾	"
Phan Mỹ Chương				農村社会学		

3) (学 士) 4) Dr Veter Med 5) 技師進士 6) Tiến sĩ đệ tam cấp (修士相当)

3.2.5 農学部のカリキュラム (1971/72教育年度)

1971/72教育年度におけるカントー大学農学部のカリキュラムを学年別に表示すると次のとおりである。

第 1 学 年

科 目	時 間 数		単 位	摘 要
	講 義	実 習		
I 基 礎 科 学				
1. 植 物 学	60	75	3	Bắt buộc*
2. 動 物 学	60	75	3	
3. 物理学概論	60	75	3	
4. 化 学	60	75	3	
5. 数学概論	30	30	1	
II KIEN THUC PHO QUAT				
1. 農学入門	45		2	Bắt buộc*
2. 英 語	60	60	3	
3. 農場実習		90	1	Bắt buộc*
4. 見学旅行(40時間)				
III 夏休中農場実習 5週間 要レポート提出			1	
	375	480	20	

* これら教科は、合格点が得られないと進学できない。

第 2 学 年

科 目	時 間 数		单 位	摘 要
	講 義	実 習		
<u>I 応用農学</u>				
1. 農学概論	30	30	1 1/2	Bắt buộc*
2. 植物生理	45	60	2 1/2	Bắt buộc*
3. 植物分類	30	30	1	
4. 生態学	30	(not phan cua du sat)	1	
<u>II 応用動物学</u>				
動物生理 { 概 論	20	20	1	Bắt buộc*
{ 生 殖	20	20	1	
{ 栄 養	20	20	1	
<u>III 基礎科学</u>				
1. 農業地質学	30	30	1 1/2	
2. 昆虫学	30	60	1 1/2	
3. 生化学	30	30	1 1/2	
4. 原動機学	20	30	1	
<u>IV 一般教養</u>				
1. 気象学	15	15	1	
2. 統計学	30	15	1	
3. 英 論	60	60	2 1/2	
<u>V 農場実習</u>				
夏休中 10 週間 要レポート提出			1	
	410	420	20	

第 3 学 年

科 目	時 間 数		单 位	摘 要
	講 義	実 習		
<u>I 応 用 農 学</u>				
1. 植物生理 (代謝と生長)	45	60	2 1/2	
2. 土 壤 学	60	45	2 1/2	Bắt buộc*
3. 灌 溉 学	45	30	2	
4. 農 業 機 械	30	60	1 1/2	
5. 微 生 物 学	60	60	2 1/2	Bắt buộc*
6. 作 物 防 疫 (昆虫, 雜草及小動物)	45	60	2	
<u>II 農 学</u>				
1. 稻				
a) 植物特性	10	15	1	} Bắt buộc*
b) 生理特性	20	15	1	
c) 栽 培	30	45	1 1/2	
<u>III 応 用 動 物 学</u>				
1. 家畜飼養				
a) 豚	25	40	} 2	
b) 魚	20	20		
<u>IV 一 般 教 養</u>				
1. 実 験 法	20	15	1	
2. 英 語	60		1 1/2	
3. 見学旅行 30 時間				
4. 小論研究				
V 夏休中農場実習 10 週間			1	
	470	465	22	

第 4 学 年

科 目	時 間 数		单 位	摘 要
	講 義	実 習		
I <u>応 用 農 学</u>				
1. 土 壤 学 (保 全 及 生 産 力)	45	30	2	Bắt buôc*
2. 作物防疫 (植物病学)	30	30	1 1/2	
3. 植物栄養学 (稻)	45	45	2	
4. 遺伝学及育種学	30	45	1 1/2	
II <u>農 学</u>				
1. 第 2 作物及園芸	60	60	2 1/2	} Bắt buôc*
※ 2. 果 樹	45	60	2	
III <u>応 用 動 物 学</u>				
家畜飼養 (水牛, 牛, 鶏, アヒル)	45	60	2	
IV <u>一 般 教 養</u>				
1. 経 済, 法 律, 協 同 組 合	60		2	Bắt buôc*
※ 2. 農 村 社 会 学 及 普 及 方 法	45		1 1/2	
3. 測 量 学	20	30	1	
V <u>そ の 他</u>				
1. 見 学 旅 行				
2. セミナー 30 時間				
3. 卒業研究 90 時間			2	
VI 夏休中農場実習 10 週間				
	425	360	20	

※工芸作物, 食品加工の選択は希望者少数のため, とりやめ

3.2.6 農学部 of 学生数

カントー大学農学部は1968年10月から開講し、当初40名の学生を入学させたが、本教育年度(1971/72年)でそれが第4年次生となり満杯となったが、34名に減っている。この4年間の学生数の推移を示すと次のとおりである。

カントー大学農学部学生数の推移

	1968-69年	1969-70年	1970-71年	1971-72年
第4学年				34
第3 "			34	50
第2 "		35	50	55
第1 "	40	60	70	70
合計	40	95	154	209

3.3 諸外国の教育協力、援助の動向

3.3.1 研究留学生の招致

カントー大学農学部に対して1972年に研究留学生受入れを申出た国は、新たにオランダ、スイス加わり、従来からの日本、米国、英国および比国と合わせて6カ国に及んだ。

3.3.2 図書・雑誌の供与

カントー大学農学部に対して英国およびオランダ政府から無償供与の書籍・雑誌の引渡式が12月22日グイエトナム外務省において行なわれ、Truong 農学部長が代表で出席した。

3.3.3 農学部教官の海外出張

(1) Asia Foundation の費用による海外視察

Asia Foundation の費用によって農学部教官が2班に分かれ、近隣諸国の大学の現状視察に出かけた。

第1班：9月15日－25日，シンガポール大学視察

Phan Van Chuong（農学科助手・植物生理学）

Chau Van Dung（畜産学科長代理，助手，獣医学）

Huynh Cong Tho（農学科助手，土壌学）

第2班：10月21日－29日，マレーシア大学視察

Tran Dang Hong（農場長，助手，稻学）

Tran Thi Tuy Hoa（畜産学科助手，水産学）

(2) 農学部長 Dr. Truong ほか2名の日本訪問

昭和46年3月，カントー大学農学部援助協力に関する巡回指導調査団（団長，宮山平八郎）が現地訪問の折，高級研修員の日本招致についての可能性ある旨を大学側に伝えた。当初3名で3週間程度の日程が予定されていたが，大統領選挙や新学期開始などの関係で2週間の日程に変更された。一行は9月22日サイゴンを出発，10月10日帰着までの間，東京で関係各方面の機関の要人と会合し，熊本，鹿児島，大阪などに旅行され，主として日本側の派遣教官の母校ないし派遣候補者との面接が行なわれた。今回の訪日でカントー大学農学部教官の日本留学の途が開けたことは，長い間残されていた懸案の事項であっただけに，本プロジェクトの一步前進といっても過言ではなからう。詳細は別項を参照されたい。

3.4 その他の情報

(1) サイゴンの国立農業大学（NAC）に常駐する米国フロリダ大学チームでは，土壌学専攻の大学院学生1名が来越し，7月－12月の半年間にわたってヴェトナムの3地点で土壌酸度改良試験（栽培試験）を実施し，その成績と作物標本および土壌標本をフロリダに持帰り化学分析を続けている。

4. 協力事業に対する国内対策

4.1 連絡会議

- (1) 本教育協力に於ける現地側の予定が当初計画より、遅くれていたこともこれあり、連絡会議では主に現地事情を中心とした討議がなされた。

専門家の派遣についても、協定上未だ2名派遣しなければならないが、カリキュラムの内容が情報不足から不明であり、どのような人を派遣したら良いか見当もたたない。このようなことから巡回指導調査団を派遣し、現地事情を十分に把握することになった。

(2) 第2回連絡会

ヴィエトナム・カントー大学農学部援助協力打合せ会（各省連絡会）の第2回会合が5月13日、文化庁第2会議室で行なわれた。

主要議題は、昭和45年度巡回指導調査団が現地で協議して来た諸問題を政府レベルでどのように受けとめるか、その方針が検討された。

- 1) 専門家の派遣：長期派遣専門家については、作物、畜産関係の専門家派遣が懸案のままとなっているので、作物については鹿児島大学池田三雄教授をできるだけ早く派遣することとし、畜産についても茨城大学柏原孝夫教授を中心に早急に人選を進めることとなった。なお、短期派遣専門家については、現地では日本から供与した教育用器材の保守管理のためのオペレータという要望であったが、各メーカーの技術者を派遣することには、自社製品についてしか責任が持てないという事情もあり、むしろ how to use という立場で、カリキュラムに密着した形で、現地の助手諸君にその目的、使用法などを教える必要がある。不幸にして現地では、講義と実験実習が遊離した形で進められており、わが国の場合もとかく教授クラスは実験器具器材の進歩には暗い面もあるので、第1線の大学助手を派遣することが有意義であろう。また、大学助手の場合はそれぞれ専門領域があるので、植物（作物）関係、動物（畜産）関係、農業物理関係、圃場機械関係の4分野に分け、現地の合意を得るとともに人選を進めることになった。

- 2) 資機材の供与：実験用資機材の供与については巡回指導調査団の現地協議に基づき、今後年2回とし、これらの要請は毎年、4月末および10月上旬以前に提出することを確認するとともに、46年度からこの方針によって進めることとした。なお、現地から特に要望の強かったプレハブの建設については、資機材供与の中で前向きに考えることとなった。
- 3) 留学生の受入れ：日本側としては本プロジェクトの協定の趣旨により、ヴェトナムからの留学生受入れ数（文部大臣と外務大臣の協議事項）の中で、できるだけカントー大学関係者を配慮することが確認された。
- 4) 短期高級研修員の受入れ：巡回指導調査団が現地で協議してきた3～5名の受入れを秋に実施する方向で現地と具体的接渉を進めることになった。
- 5) 農学用語集の編纂その他科学者レベルの協力事業：巡回指導調査団が現地で協議してきた諸事項の中には、政府の予算措置以前に科学者レベルで共同研究を行なって作業を進めるべき性質のものもあるので、これらに対しては文部省の科学研究費補助金（代表者、茨城大学柏原孝夫教授）の交付を受けて進めたい旨の説明があったり了承された。

4.2 運営協議会

政策に係る問題は各省会議によって、外務省が決定するものであるが、教育協力は、経験的なものが重要であり関係者から意見を聴取することとし本協議会を昭和46年11月4日にヴェトナム・カントー大学農学部運営に関する協議会とし、その発足をみた。

構成メンバーは次のようになっている。

構成メンバー

1. 文部省 文化庁 国際文化課長
2. 文部省 大学学術局関係課長
3. 外務省 技術協力課長
4. 農林省 国際協力課長

5. 熱帯農業研究センター 所長
6. 熱帯農業学会会長
7. (財)日本国際教育協会会長
8. (社)東南アジア農業教育開発協会会長
9. (財)海外農業開発財団理事長
10. 海外技術協力事業団農業協力部長

第1回の会議は11月15日に開催し、座長に西川五郎教授を選出し協議に入った。第1回目の会議であり、本協議会の主旨を説明すると共に、各省、団体の考え、協力姿勢などを中心に協議を進めた。今後、現地Joint Committeeの協議内容と並行しながら本協議会を運営する予定である。本教育協力の効果的運営に大いに役立つものと期待している。

4.3 昭和45年度巡回指導調査団の派遣

ヴィエトナム・カントー大学農学部に対する技術協力について、日本国政府とヴィエトナム共和国政府との間に協定が成立したのは1970年3月7日であった。従来、教官の派遣や教育用資機材の供与など活発な教育協力事業が進められてきたが、一方、後継者養成(国費留学生の招致)はじめ、派遣教官の宿舎、後続派遣教官、日本語教育、カリキュウム、農学部の拡充計画、合同委員会の設置などの諸問題については未解決の事項も多く、早急な解決が望まれていた。

海外技術協力事業団では、協定成立後1カ年を経過したところで現地に巡回指導調査団を派遣し、その後の協力事業の進展と実情を調査するとともに、懸案の諸事項についての現地協議を計画した。調査団の団長には文部省科学官官山平八郎博士を、団員として鹿児島大学農学部教授池田三雄博士、茨城大学農学部教授柏原孝夫博士および事業団から新保昭治氏の4名を選定し、昭和46年3月21日から4月9日までの3週間にわたってサイゴンの日本大使館、ヴィエトナム文部省、カントー大学など現地関係諸機関の当事者と協議を行なうとともに、サイゴンの国立農業大学、ニャチャンの海洋研究所、ロンセンの農

業祭，カントー地区の農水産試験研究機関，モデル農村などの視察を行なった。

調査結果については，すでに「ヴィエトナム・カントー大学農学部援助協力に関する昭和45年度巡回指導調査報告」（昭和46年7月）が海外技術協力事業団農業協力部から刊行されているので，それを参照されたい。

4.4 派遣専門家の選衛

国際教育協力が成功するかどうか鍵は，一つにかかって派遣専門家の人物による。それだけに協力事業の中で派遣専門家の人選は最重要視されている。本プロジェクトに関しては幸い科学者ベースの組織（文部省科学研究費による柏原研究班）があって協力分野における関係科学者が全国的に話し合い場をもっており，一方，OTCAに設けられた運営協議会（委員長，東京教育大・農学部西川五郎教授）においても関係官庁，諸団体および学識経験者による組織によって具体的運営面での検討が行なわれ，さらに各省連絡会において最終的に政府レベルでの方針が決められるという3段階への機構を通して派遣専門家についても人選が行なわれている。

また，科学者レベルの段階で，できるだけ現地の事情を把握することは派遣専門家の人選にも寄与するところが大きいと考えられたので，昭和45年度巡回指導調査団には，作物関係として鹿児島大学池田三雄教授，畜産関係として茨城大学柏原孝夫教授の両氏が特に加えられた。

(1) 本年中に新たに派遣された専門家の氏名，専門分野，任期を示すと次のとおりである。

△池田三雄（鹿児島大学農学部教授） 熱帯作物学

任 期：2年 昭和46年 6月 8日～昭和48年 6月 7日

(2) 来年中に派遣予定として、すでに了承の得られている専門家予定者は次の方々である。

△柏原孝夫（茨城大学農学部教授） 畜産学

任 期：1.5年 昭和47年3月24日～昭和48年 8月 31日

（予定）

△永田良胤（前宮崎大学農学部教授） 獣医畜産学

任 期：2年 昭和47年8月 日～昭和49年8月 日（予定）

4.5 資機材の供与

煩瑣な事務的手続きなどからタイミングな機材供与がなされず、専門家の活動に支障をきたしたのも事実である。

本年は第2次供与として3月に2,000万円の資機材を供与した。主に川本、太田両専門家からの要望による機材であり、両専門家が赴任時に要請したものである。水産学教室関係、遺伝育種学関係の資機材がこれである。

この他に図書、試薬関係を含めたが、要請の資機材がより効果的に利用されるには、附属品、試薬などを多量に送る必要がある。又機器に関して言えば、現地からの要請仕様が非常に不備である。専門家のアドバイスと共に本邦からのカタログ送付、国内専門家からの協力を必要としよう。次年度は6,000万円余の資機材供与となるが、現地からはプライオリティのついた要請機材リストが既に手元にあり、目下この検討を進めている。本要請資機材リストは、Joint Committeeの承認を得たものである。巡回指導調査団に対する現地からの要望は年2回の購送であったが、第1回の要請分で既に予算枠一杯となるので、年2回の購送とはならない。OTCAとしても出来る限りタイムリーに資機材を購送したいが現状では仲々困難である。今後の抜本的改善を期待したい。

4.6 文部省科学研究費による柏原研究班の活動

4.6.1 研究課題と目的

国の文化と国民生活水準の向上維持を支える基礎的なものは、その国の生産力と教育の力である。生産力としての農業、工業、水産業などの発展のためには、まず優秀な人材の輩出にまたねばならない。「人づくり」は人類共通の課題であるが、わが国の教育課題と開発途上諸国のそれとは必ずしも同じではなく、むしろ、歴史的背景や文化、言語、宗教、民族、政治、自然条件などまったく異った環境での教育課題を理解し、今後われわれが東南アジア諸国の農業教育に直接参加することを目的として、「開発途上国とくに東南アジア地域の高等教育協力に関する調査ならびに研究」班を組織し、茨城大学農学部柏原孝夫教授を代表者として文部省科学研究費（総合研究－B）の交付を得た。

4.6.2 46年度の研究計画と研究組織

昭和46年度においては、すでに1970年3月に協定がなされたヴィエトナム・カントー大学農学部に対する教育協力の諸問題を具体的に取上げ、研究班の組織も現地調査の経験をもった人並びに現地派遣教官候補予定者および関係者によって編成された。班の組織を示すと次のとおりである。

（代表者）

柏原孝夫	茨城大・農	教授
山川寛	佐賀大・農	教授
鈴木正三	東京農大	教授
片山忠夫	鹿児島大・農	助教授
林ノ満	"	助手
井之上準	九州大・農	助手
田中亮一	茨城大・農	助教授
永田良胤	宮崎大	名誉教授
渡辺守之	広島大・水畜	教授
池田三雄	鹿児島大・農	教授（46年6月より現地派遣中）

(オブザーバー)

西川 五郎 東京教育大・農 教授

官山 平八郎 文部省 科学官 (46年8月から日本国際教育協会・常務理事)

新保 昭治 O T C A 農業協力部

研究班は、(1)高等教育レベルにおける国際教育協力の理念を現地の教育事情に適應させるべく、教育活動のバックグラウンドとなるヴィエトナムに関する内外の文献資料の収集と整理を行なり、(2)教育活動の基本はCommunicationであるので、農業教育に必要な用語集をヴィエトナム語、日本語および英語によって刊行することを目的として編集作業を行なり、これは現地で日本からの派遣教官の教育活動に寄与するとともに、日本に留学中のヴィエトナム学生の勉学にも役立ち、広くは世界中の英語国民がヴィエトナムの農業を理解する手がかりを与えるものと信じている。(3)農業はいりまでもなく地域性がきわめて重要であり、具体的にはその地域で栽培されている作物、飼育されている家畜の必然性が追求されねばならない。その意味から班員の中の畜産関係グループが中心となって、現地の講義に使用できる英文の畜産学テキストの編集に取り組む、(4)現地に派遣される教官がその任期中、ヴィエトナムにおける作物、家畜の在来種について調査研究することはきわめて有意義であり、現地の若い教官諸君とのミッドアルバイトとして適切な研究課題であり、わが国の農学にとっても興味ある研究領域であるので、現地との連絡を密にし、派遣前の文献活動と研究計画の立案、帰国後のまとめなどについて班として協力体制をとる。などを本年度の研究計画とした。補助金額は100万円であった。

4.6.3 研究班の作業実績

(1) 現地調査への参加

日本海外技術協力事業団のヴィエトナム・カントー大学農学部教育協力のための巡回指導調査団(団長、官山平八郎)が、昭和46年3月21日～4月9日、現地へ派遣されたが、本研究班の関係者で調査団が編成された。すなわち、団長にはオブザーバーの官山平八郎(文部省)

団員には班長の柏原孝夫（茨城大），班員の池田三雄（鹿児島大），オブザーバーの新保昭治（OTCA）の計4名が選ばれ，3週間にわたって現地カントー大学を始め，関係諸機関を訪問し，必要な調査活動を行った。具体的内容は別項「カントー大学農学部教育援助協力に関する巡回指導調査」を参照されたい。

(2) ヴィエトナムにおける高等教育事情調査

昭和46年3月21日～4月9日にわたって行なわれたカントー大学農学部援助協力に関する巡回指導調査ならびに現地の太田泰雄専門家が送付された「Higher Education in Vietnam」(The Saigon Post 1971. 5. 1 - 16 連載記事)を中心に，最近におけるヴィエトナムの高等教育の諸変化を宮山が取りまとめ，雑誌「海外技術協力」の1972年4月号に発表した。これは単に調査団の報告だけでなく，現地新聞の論調を取り入れているので，転換期のヴィエトナムの高等教育の事情を知る上できわめて興味深い報告であろう。

(3) 農学用語集の編集作業

前記のカントー大学農学部巡回指導調査団（3月21日～4月9日，団長，宮山平八郎以下4名）が，サイゴンの国立農業大学に常駐するフロリダ大学チームが作成した「A Glossary of Agricultural Term English-French-Vietnamese」(University of Florida Contract USAID/Education, Saigon 1969)をもらい，これを台本としてヴィエトナム側と日本側とで追加添削を行ない，英語-ヴィエトナム語-日本語（ローマ字），日本語（ローマ字）-ヴィエトナム語-英語，ヴィエトナム語-英語-日本語（ローマ字）の3部作を新たに編纂することで両者の合意がなり，まず，日本側とヴィエトナム側で新しく追加すべき用語の選定を行ない，すでに日本語の追加分はヴィエトナム側に送付済みで，一方，日本側では台本の用語について日本語を，所定のカードに記載する作業を進めている。なお，日本語の用語は文部省学術用語審議会の農学用語専門分科会で選定したものを一応の対策と

した。

(4) 英文畜産学テキストの編集

主としてアジア地域の開発途上諸国で使用できる英文の畜産学テキスト (Textbook of Livestock Industry) を編集するため、次のような編集スタッフが組織された。

- | | |
|----------------|-----------|
| T. Kashiwabara | (茨城大・教授) |
| Y. Shoda | (東大・助教授) |
| S. Suzuki | (東京農大・教授) |
| R. Tanaka | (茨城大・助教授) |
| M. Watanabe | (広島大・教授) |

計画中の内容は下記のごとくで、できたものからシリーズとして刊行することとした。

I. General Introduction

1. Livestock Population
2. Domestication of Animals
3. Structure and Function
4. Environmental Physiology
5. Breeding
6. Livestock Farming and Industry

II. Husbandry

1. Swine
2. Poultry
3. Cattle
4. Sheep, Goat
5. Horse
6. Elephant
7. Camel
8. Rabbit et al

Ⅲ. Management, Marketing and Future Problems

(5) ヴィエトナム関係の文献・資料

現在、日本でみることのできるヴィエトナム関係の文献・資料リストを作成することを目途に、主として茨城大・田中助教授とOTCA新保昭治氏が分担した。47年3月末までに、一応収集したものを整理して刊行することとした。

(6) ヴィエトナムにおける作物・家畜の在来種の調査研究

現地に派遣中の専門家およびこれから派遣される候補者を中心に、作物および家畜に関する在来種を調査研究し、できれば現地の若い教官とのミットアルバイトの形でモノグラフを作成する計画を考慮した。取りあえず太田泰雄専門家はトゥガラシ、池田三雄専門家は熱帯果樹、そしてリーダーの川本信之専門家はメコンデルタの淡水魚について調査研究が進められている。ミットアルバイトのモノグラフ刊行については巡回指導調査団からカントー大学側に申し入れ了承されている。

(7) Truong 農学部長らを迎えての打合せ

46年10月、カントー大学農学部長Dr. Nguyen Viet Truong, 農業工学科主任Mr. Nguyen Phu Thienおよび大学事務局長Mr. Nguyen Van Vong の3氏が来日された機会を捕え、10月6日、神田学士会館で当研究班のプログラムの進め方、特に農学用語集、英文畜産学テキストなどについて具体的な作業内容を打合わせた。

(8) 文部省関係者との打合せ

10月7日、OTCAオフィスにおいて、沢田文化庁国際文化課長、植木文学省留学生課長および宮山日本国際教育協会常務理事との意見交換が行なわれ、OTCA新保昭治氏が同席した。

沢田課長より文部省の国際文化交流事業の概要について説明があった後、話題は主として留学生受入れ問題に集中した。植木課長より文部省国費留学生受入れの現状と方針について説明があり、宮山常務理事から協会の事業概要を説明した。問題はカントー大学農学部からの留学生受

入れ別枠の設定の話から、これまでカントー大学農学部からの留学生を何故に別枠としなければならぬかの実情が初めて明らかにされた。すなわち、ヴィエトナム側では留学生の派遣は学生に限る（卒業後2年以内）として公務員は除かれている。そのためカントー大学農学部の教官（助手諸君）は申請の資格がないとされていた。日本側ではそのような資格の制限はなく、あくまでヴィエトナム側の国内事情によるものであることが確認されたので、日本側としては現地大使館へこの旨公式に連絡して日本側の意向を伝えるとともに、Dr. Truongもヴィエトナム側で問題解決に善処することとなった。このことは、本プロジェクトの懸案事項であっただけに、当日の会合の最大の収穫であった。（その後、ヴィエトナムに割当てられた昭和47年度国費留学生8名の中に、カントー大学から3名の申請があり、いずれも選衡委員会をパスした。）

